

平成29年度 学校経営計画及び学校評価【城星学園小学校】

1 めざす学校像

城星学園は、カトリックの精神に基づき、創立者聖ヨハネ・ボスコ（ドン・ボスコ）の教育理念である『道理』と『信仰』と『愛』に根ざした教育法によって、園児、児童、生徒の全人間教育に励み、神を敬い、人を愛し、自然を大切にする『良心的な人間、よき社会人』を育成することを使命としています。

「教育は心の問題であり、青少年を愛するだけでは足りません。
青少年が愛されていると感じられるように彼らと共に生きる」

2 中期的目標

- 1 アッシステンツァを実践する
 - ① キリスト教精神に基づく教育活動の実践
 - ② 教職員対象のカトリック教育
 - ③ 祈りの習慣付け
 - ④ 保護者の啓発
- 2 「園児・児童・生徒の安全」管理を徹底する
 - ① 危機管理及び防災備蓄体制の確立
 - ② 実地訓練の充実
 - ③ 安全管理体制の公開及び発信
- 3 『「良心的な人間、よき社会人」を育成する教職員』を育成する
 - ① 社会人教育の実践
 - ② 社会貢献活動の展開
 - ③ 教育活動従事者としての意識と技術の向上
- 4 小学校ブランディングプロジェクトを推進する
 - ① ドン・ボスコの心による教育の実践
 - ② 幼・小ブランディングプロジェクトの推進
- 5 自然に挨拶が交わせる学園にする
 - ① 教職員間のコミュニケーション円滑化
 - ② 園児・児童・生徒、保護者への挨拶の励行
 - ③ お客様、業者への挨拶の励行

【自己評価アンケートの結果と分析・学校評価委員会からの意見】

ア. 自己評価アンケート結果と分析	イ. 学校関係者評価委員会からの意見
<評価が相対的に高かった項目> ○建学の精神・教育理念に共感できる ○学校の行事が楽しい ○この学校に通わせて満足している ○教職員は気持ちの良い挨拶を行っている ○施設設備は清掃が行き届いている (すべて満足度85%以上) <評価が相対的に低かった項目> ○地域との連携を積極的に図っている ○幼小中高の連携が取れている ○進路指導の時期等が適切である	学校法人城星学園学校関係者評価委員会は理事会・後援会（保護者）・各学校種管理職・評議員（学識経験者）により構成されている。平成29年度学校評価に関する検討は平成30年5月10日（木）に行われた。 <意見> ○全般について アンケートにおいては教育方針と教育理念に対する共感が多いと感じられる結果である。ただし回収率はより高い率になるよう努めてほしい。 ○安全確保について 「緊急時の連絡」について昨年度よりやや評価が下がっているため、体制の充実を含めた改善が必要である。 ○教育内容について 現状高い満足が得られているが、命の大切さや生きる強さなどについても教育内容に取り入れることでいじめ等の予防にもなるのではないかな。 ○行事等について 運動会等の実施において、場所の選定を含め教育効果を高めるために必要なことは何なのかという点をさらに突き詰めていただきたい。

3 本年度の取組内容及び自己評価

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
1 ア ッ シ ス テ ン ツ ア を 実 践 す る	アッシステンツアの励行を強化する	ア) 司牧研修を活性化し、建学の精神についての理解を深める イ) ミッションスクールとしての特性を具現化する ウ) 保護者の理解度を高めるため、保護者対象勉強会を実施する	設問「建学の精神および教育理念に沿った教育を行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「建学の精神および教育理念に共感できる」のA・B評価が90%以上。 設問「建学の精神および教育理念の説明をわかりやすく行っている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 84.5%。教員一人ひとりが日々の祈りの意向を考えながら先唱するようになり、祈りへの意識の向上が感じられるようになった。(○) イ) A・B評価 91.9%。教育の中核をなす心の教育をミサを始めとする宗教行事の効果的な実施について再検討が必要である。(◎) ウ) A・B評価 84.1%。母親教室、ドンボスコ勉強会を各6回実施した。(○)
2 園 児 ・ 児 童 ・ 生 徒 の 安 全 「 管 理 を 徹 底 す る 」	学齢に応じた安全教育を実施する	ア) 学年別の安全教室を実施する イ) 危機管理研修を実施する ウ) 避難訓練を徹底実施する	設問「生活指導により、基本的生活習慣が身に付いている」のA・B評価が80%以上。 設問「学校の施設・設備は安全管理が行き届いている」のA・B評価が80%以上。 設問「保護者に対して緊急時の連絡体制を伝えている」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 77.1%。1年交通安全教室、2年危険防止教室、3年自転車教室、4年防災教室、5年非行防止教室、6年薬物乱用防止教室を実施した。前年度より評価は若干上昇した。(△) イ) A・B評価 82.9%。炊き出し訓練及び児童引渡し訓練を実施することはできなかったが、危機管理研修として講話を拝聴し、ともに考える場を設けた。(○) ウ) A・B評価 80.1%。「おはしも」の徹底実行を図った。次年度に向け、よりいっそうの安全対策及び体制の充実を図っていく。(○)
3 『 良 心 的 な 人 間 、 よ き 社 会 人 』 を 育 成 す る	教職員研修を実施する	ア) 「褒め方・叱り方」に関する研修を実施する イ) 新任研修会を実施する	設問「教職員は、社会人としての良識をわきまえた言動を実践している」のA・B評価が80%以上。 設問「教員は、十分な指導力を有している。」のA・B評価が80%以上。	ア) A・B評価 71.1%。研究授業6回、ノートレポート研修2回、ドンボスコ研修2回、聖書研修1回、1泊2日黙想会を実施した。今後効果が現れることを期待。(△) イ) A・B評価 68.7%。研修授業は実施したものの実技研修は日程の都合により実施できず。かわりに危機管理研修を実施した。さらなる指導力の要請が必要である。(×)
	児童に関する情報交換を実施する	ウ) 教員間において日常的に情報交換を行う	設問「教員間での連携が十分に図られている」のA・B評価が80%以上。	ウ) A・B評価 69.0%。クラスを越えて、学年で問題意識を持ち解決を図った。全教員間でも情報を共有しあらゆる場面で対処できるようにしてきたが保護者に十分伝わっていない可能性がある。(×)

中期的 目標	今年度の重点目標	具体的な取組計画・内容	評価指標	自己評価
4 小学校ブランディングプロジェクトを推進する	城星小ブランド化プロジェクトを推進する	ア)「いつもどこでも子どもと共に」の実践を図る イ)学習習慣の定着を図る ウ)学校行事の教育効果を高めるため工夫を継続する	設問「子どもは、この学校が楽しいと言っている」のA・B評価が80%以上。 設問「家庭での学習を十分に行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「学校の行事が楽しい」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 89.0%。児童に多様な指導が必要になってきており、休み時間に運動場に出て児童と過ごすという面ではやや減少した。(○) ウ)A・B評価 73.2%。低学年の評価は高いものの、高学年の評価はそれほどでない。(△) エ)A・B評価 89.8%。運動会の実施場所を変えるなど工夫を重ねた。保護者からの理解がよりいっそう得られるよう説明を尽くす必要がある。(○)
5 自然に挨拶が交わせる学園にする	挨拶を励行する	ア)教職員間で挨拶を励行する イ)児童に対し挨拶・会釈の指導を行い励行を促す ウ)保護者とのコミュニケーションを充実させる	設問「教職員は気持ちの良い挨拶を行っている」のA・B評価が80%以上。 設問「礼儀、マナーが身に付いている」のA・B評価が80%以上。 設問「学校は保護者に対して生活指導の方針の説明をわかりやすく行っている」のA・B評価が80%以上。	ア)A・B評価 86.2%。「明るく笑顔で元気よく」をモットーに実施してきた。(○) ウ)A・B評価 73.9%。習慣として身につけている児童と、そうでない児童に差があるものの、挨拶を意識していると感じられる。(△) エ)A・B評価 67.1%。母親教室を年6回実施。中高副校長の松本教諭による講話も実施したがまだ十分な効果が得られていない。(×)